

令和7年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立篠田小学校

1 総括

(1) 教育目標(学校経営案より)

「あま市教育立市プラン」に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指して、「自ら学び、豊かな人間性とたくましく生きぬく力を備えた児童」の育成を図る。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 豊かな心の育成

- ・ 学級経営〔縦糸（指導者と児童をつなぐ）、横糸（児童と児童をつなぐ）を紡ぐ〕のより確かな充実を図る。
- ・ 教職員が、児童をよく観て、よく感じ、当たり前のことを当たり前に行う大切さと、有り難いことをありがたいと感じる心を育み、自己肯定感や自己有用感、自尊感情を一人一人が味わえるよう導く。
- ・ 「スマイルトーク」や、朝の読書、異年齢集団（青空活動）による活動、総合的な学習の時間や福祉教育・道徳教育等を通して、他者を思いやることのできる豊かな心と社会性を育てる。
- ・ 互いに安心して関わるために、あいさつや返事、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・ 命を尊び（生き物の飼育・観察）、命を守り（交通安全・防犯・防災）、命を育む（野菜等の栽培）ことを通して、自他ともに健康で安全な生活しようとする意識を高める。
- ・ 特別に支援を要する児童に対しての指導・支援体制の整備とその活用を学校全体で進める。
- ・ 児童会活動の活性化により、異学年交流を通じて、自分の役割を果たし、他者に貢献する喜びを育む。
- ・ 行事や諸活動のねらいや意義を明確にし、効果的、効率的に準備し、達成感を味わえるようにする。

イ 学習指導の充実

- ・ 指導者の授業力の向上。学習者の立場になった、具体的な指導・支援の手立ての研究。
- ・ 現行学習指導要領の理解を深め、適切に評価し、学習活動に反映させる。
- ・ より効果的な ICT 機器の活用を目指し、研修を重ねる。
- ・ 校長・教頭および中堅・若手の「研修の充実」を図る。
- ・ 学年内での協力体制の強化（教科分担、生徒指導協働）。

ウ 家庭や地域との連携

- ・ 『誠意はスピード』『教育は今日行く』日々の保護者との報連相・確や、自己点検や学校評価により、保護者・地域からの意見を聞きながら、信頼され開かれた学校づくりに努める。
- ・ P T A組織を活用し、保護者や地域との協働体制を有効に機能させる。
- ・ 市教委や教育相談センター、子ども福祉課、S C、S S Wとの連携強化により、不登校児童の減少と、その子が「家庭以外の誰かと繋がる」ことにより、豊かで充実した毎日を過ごせるようにする。（不登校・不応対コーディネーターの設置）
- ・ コミュニティスクールを活用し、地域とより多く関われるような場面を設定する。学校の様子は、ホームページ等で情報の公開に努める。
- ・ 義務教育9年間で児童を育てる視点を持ち、幼保小中連携教育を推進する。

エ 多忙化解消に向けて

- ・ ねらいと効果を明確にした業務内容の精選・改善や、校務分掌の見直しを随時行い、チームによる対応力の強化を図る。
- ・ 温かな言葉遣いを意識して声をかけあい、小グループでの会議を有効に活用し、組織力の向上を図る。
- ・ P D C Aサイクルを有効に活用し、目的的な努力をする気風を高めるようにする。
- ・ 常に、より少ない時間で、より大きな効果を上げるのはどうしたらよいかということを考えながら、仕事に取り組む。
- ・ 過去の資料（型）を参考にし、何を教えるかよりも、どう教えるかという工夫に重点をおけるようにする
- ・ 在校時間の適正な管理、勤務の割り振り、一斉退校日の設定等により、健康維持に努める。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和7年12月8日（月）～12月15日（月）

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・ 児童	338名／全352名	・ 教職員	20名／全21名
・ 保護者	221名／全352名		計579名／全725名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 全体を通して、ほとんどの項目で児童・保護者・教職員とも「とてもそう思う」「少しそう思う」という肯定的な回答を80%以上得ることができた。
- (2) 児童においては、どの項目に対しても、昨年度に比べ肯定的な回答が多かった。「授業は分かりやすい」「先生や友だちの話をしっかり聞いている」「先生は、自分の話をよく聞いてくれる」など6つの項目に対して、肯定的な回答が90%を超えていることから、学校生活においては、概ね満足していると言える。一方「自分の考えや気持ちを先生や友だちに伝えている」「困ったとき、相談できる人がいる」「毎日学校に行くのが、楽しみである」「早寝・早起きをして朝ご飯をしっかり食べている」「学校であったことを家で話している」の5項目で肯定的な回答が80%に届かなかった。人との関わりに関することについて、評価が低いことが分かった。
- (3) 保護者においては、ほとんどの項目で肯定的な回答が80%を超えている。特に、「わが子は、授業が分かりやすいと言っている」「学校は、学習の基礎・基本の定着に努めている」「学校は、一人一人を大切にしたいきめ細やかな授業を行っている」「学校は、感謝の気持ちや思いやりなど豊かな心づくりに努めている」「学校は、いじめの防止や早期発見、適切な対応に努めている」「学校は、事故防止に努め、子どもの安全教育に取り組んでいる」「学校は、保護者の連絡や相談に丁寧に対応している」の項目については、肯定的な回答が90%を超えており、学校生活において、概ね満足していると言える。
- (4) 教職員においては、多くの項目に対して肯定的な回答が100%となっている。向上心と研究心をもって真摯に職務を遂行し、成果を上げていることが分かる。一方、「在校時間や退校時間を意識して、業務を行っている」の項目についての回答が年々下がっている。教職員は、よりよい授業、よりよい指導をするために、また、任された分掌を行うするために就業時間を超えて勤務していることが分かる。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 保護者の「学校は、いじめ防止や発見に努めている」という項目の肯定的な回答が大きく上がった。教職員が「早期発見・早期解決」の意識のもと、情報の共有化、チームでの指導を徹底して真剣に取り組んでいることが評価された。これに甘んじることなく、今後も教職員が問題意識をもち、アンテナを高くして日々過ごしていきたい。
- (2) 保護者の「学校は、各種たよりやホームページでわかりやすく情報発信をしている」という項目の肯定的な回答が、年々上がってきている。学校の様子を伝えるため、こまめに記事をホームページを更新するように努めたことが評価につながっていると考えられる。
- (3) 教職員においては、学習面で「わかる授業」「めあてとふりかえりを明確にした授業」「基礎・基本の定着」など、昨年度以上に意識して取り組むことができた。児童には「授業がわかりやすい」（約91%）、保護者には「学校は、学習の基礎・基本の定着に努めている」（92%）と評価された。また、日頃から保護者への丁寧な対応に心がけている（教職員95%）ことも、保護者にしっかりと伝わっている（保護者98%）。
- (4) スリンプルプログラム「スマイルトーク」をスタートして3年目となる。児童の「スマイルトークで学んだことを生活にいかしている」の項目では、昨年度、肯定的な回答が73%であったものが今年度は約80%に上がっており、児童が3年間の取組の成果を感じながら学習に取り組んでいることが分かる。

《課題》

- (1) 「先生や友だちの話をしっかりと聞いている」という項目には、約95%の児童ができていますと答えているのに対して、「自分の考えや気持ちを先生や友だちに伝えている」という項目には、できていますと答えた児童が約79%であった。児童が、自信をもって自分の内面を表出できるよう、自己肯定感を高めるとともにお互いを認め合う温かな集団づくりの実現に向けて努力していく。
- (2) スマイルトークの取組について、保護者の「わが子は、スマイルトークの時間が楽しいと言っている」の項目では、評価が大きく下がっている。取組のねらいや様子、成果等を公開したり発信し

たりして、取組への理解を深める必要がある。

- (3) 教職員の在校時間が長くなり、退校時間が遅くなっている。心身ともに健康で児童の教育にあたるためにも、在校時間を意識して働くことを徹底する。また、業務を見える化して、無駄をなくし、効率よく進めていく。そして、分担の見直し等を行い、業務が一人の教職員に集中することがないようにする。
- (4) 「わが子は、スマホ、ゲーム機器、SNS などの使用について節度を守っている」という項目には肯定的な回答が62%と極端に低い。学校ではきまりを守ってタブレット端末を活用している児童が多いが、家庭では約束を守って使用していない現状である。

6 改善策

- (1) 児童の自己肯定感を高めるとともにお互いを認め合うあたたかな集団づくりを進めるために、シンプルプログラム「スマイルトーク」を継続して行い、心豊かな土壌づくりを根気強く行っていく。児童も教職員もともに傾聴姿勢を大切にして、話しやすい場づくりに努めたり、話すことに慣れたり、認められる経験を積んだりしていく。今後は、取組のねらいや様子、成果等を授業参観で公開したり、ホームページで発信したりして、保護者に取組への理解を深めていく。
- (2) 教職員の在校時間については、教職員が心身ともに健康で児童の教育にあたるために、ゆとりをもって児童と向き合える時間を確保するために、引き続き在校時間を意識して勤務にするよう働きかけていく。また、行事や会議等を精選し、ねらいを達成するための手段として現行通りでよいのかを考えながら進めていく。業務を見える化して、業務の集中などがないかを確認し、無駄をなくし、効率よく行うように心がける。
- (3) 「いじめ防止や問題の早期発見・早期解決」に対しては、引き続き全職員で取り組んでいく。速やかな事実確認、また、教職員の協働体制による丁寧かつ迅速な動きが重要である。気になることがあれば、情報をこまめに教職員全体で共有して、篠田小の児童全員を、篠田小の教職員全員で育てていく体制を今以上に確立していく。また、保護者との連絡を密にし、家庭と学校が双方ともに児童の成長に尽力する関係性を構築していく。
- (4) スマホ、ゲーム機器、SNS などの使用については、「使用する時間や場面」「相手の気持ち」「個人情報と安全」等、児童の発達段階に合わせて必要な指導を継続的に進めていく。